

アメリカ証券市場の持つ波作り型競争哲学を先見していた福沢諭吉の「学問のすすめ」

- | | |
|---|---|
| <p>1 国 是 自主独立</p> <p>2 本 質 理想・現実一体</p> <p style="padding-left: 40px;"><u>日本の 学者文字問屋、飯を喰べる字引</u></p> <p>3 文明の基本原則 民による創造力</p> <p style="padding-left: 40px;">「ミツヅルカラツス」こそ知恵の源泉</p> <p>4 官の失敗、腐敗原因 <u>私・智, 官・愚, 散・明, 集・暗</u></p> <p style="padding-left: 40px;">皆んなで作るゴミの山、私物化する(公)</p> <p>5 国の再建策・・・文明＝「<u>疑</u>」「<u>取・捨</u>」「<u>断</u>」</p> <p style="padding-left: 40px;">信に過ぎず、疑に過ぎず、学問の要＝明智を明らかにすること。学問・シンク
タンク・判例・失敗記録の蓄積が必要</p> <p>6 今の日本が必要とする福沢諭吉流「学問のすすめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本版構造改革の必要性を予見していた「学問のすすめ」
学術、法機能改革 ・ 具体的な構造改革の処方箋
民、創造、プライスメカニズム・シンクタンク機能 ・ 漢字と英語・・・波作り言語(米・漢字)と波消し言語(日本) | <p>(アメリカ)
独立宣言</p> <p>↓</p> <p>憲 法</p> <p>↓</p> <p>証券 (security)</p> <p>↓</p> <p>ウイルソン大統領 ベンチャー</p> <p>↓</p> <p>10b-5</p> <p>↓</p> <p>公益 regulation</p> <p>↓</p> <p>market メカニズム</p> <p>↓</p> |
|---|---|

1 国 是

- P29 「独立の気力なき者は国を思うこと深切ならず。」
「内に居て独立の地位を得ざる者は外にあって外国人に接するときもまた独立の権義を伸ぶることを疑わず。」
- P32 「独立の気力なき者は必ず人に依頼す。」
「人に依頼する者は必ず人を恐る。」
「人を恐るる者は必ず人に諂うものなり。」
「常に人を恐れ人に諂う者は次第にこれに慣れ、その面の皮、鉄の如くなりて恥すべきを恥じず、論ぜず、人をさえ見れば腰を屈するのみ。」
「いわゆる習い性となるとはこのことにて慣れたるものは容易に改め難きものなり」
- P33 「独立の気力なき者は、人に依頼して悪事をなすことあり」

◎ 教訓

「天と安保 security に守られ自立の重要性が理解できなくなってしまうている日本民族、憲法、独禁法、証取法を使わなくても奴隷にならずに暮らしてきた日本の社会…キレイな競争だけ導入して詐欺的行為の恐ろしさを忘れていた日本

2 学問の本質 理想・現実一体…文字の間屋・飯を喰べる字引のような学者は無用の長物

- P20 「文字を読むことのみを知って物事の道理を弁えざる者はこれを学者と言うべからず。」
「いわゆる論語よみの論語知らずとは即ちこれなり。」
「我が国の古事記は暗誦すれども今日の米の相場を知らざる者は、これを世帯の学問に暗き男と言うべし。」
「経書史類の奥義には達したけれども商法の法を心得て正しく取引をなすことを能わざる者は、
「これを帳合の学問に拙き人と言うべし」
「数年の辛苦をため数百の執行金を費して祥学は成業したけれどもなお一個私立の活計をなし得ざる者は、時勢の学問に疎き人なり。」
「これらの人物は、たゞこれを文字の間屋というべきのみ。
その機能は飯を喰う字引に異らず。」
「国のためには無用の長物、経済を防ぐ食客と言うてなり」

故に世帯も学問なり
帳合も学問なり
時勢を察するも学問なり

「何ぞ必ずしも和漢洋の書を読むのみをもって学問と言うの理あらんや」

◎ 教訓

「ソロバンを忘れたバラバラ分配願望社会科学の崩壊・・・財政破綻を招いた日本」

- ・ アメリカ憲法 1. 8. 3 defence welfare commerce regulation tax 一体
この commerce と regulation は願望、理想、現実一体の発想から生まれている。⊕⊖の中での独立、憲法、証券市場経済の考え方は、この憲法 DNA 用語で表現される判例法で継承されている。
- ・ 日本タテ文化、士、学者、農、工、商バラバラ・・・まとめているのは天と地の発想のまま
理想現実一体のメカニズムを持つのは民、会社だけ。お上経済は⊕社会の中での経済尻調整のみ、帳合の a/c はゴム紐会計、トバシ型、本物の学術 10b-5 判例ナシ
- ・ 外の世界は⊕⊖社会であることを忘れ⊕だけの世界で過ごせた日本の本丸で⊕内の調整を学問と心得えてきた日本の本丸流の学問のツケが「財政破綻」を招いている。

3 基本原則

P50 「ミツヅルカラツス」こそ知恵の源泉

「古の民は政府を恐れ、今の民は政府を拝む」

「この勢いに乗じて事の徹を改むることなくば、政府にて一事を起せば文明の形は次第に具わるに似たれども、人民は正しく一段の氣力を失い文明の精神は次第に衰えるのみ」

「国の文明は上政府より起るべからず。下小民より生ずべからず。必ずその中間より興いて衆庶の向うところを示し、政府と並び立ち始めて成功を期すべきなり」

「西洋諸国の史類を案ずるに、商売工業の道一つとして政府の創造せしものなく、その本は皆中等の地位にある学者の心匠に成りしもののみ。」

「蒸気機関はワットの発明なり。鉄道はステフェンソンの工夫なり。始めて経済の定則を論じ商売の法を一変したるはアダム・スミスの功なり。」

「この諸大家はいわゆる「ミツヅルカラツス」なる者にて国の執政に非ず。また力役の小民にあらず。正に国人の中等に位し、智力をもって一世を指揮したる者なり。」

「…故に文明の事を行う者は私立の人民にして、その文明を護する者は政府なり。」

◎ 教訓

「ミドルクラスから生れる知恵」

(アメリカ)

- ・ 金融独占の弊害…不正、腐敗、浪費に悩んだウィルソン大統領の声明
1914年…
「アメリカの富は既知の支配階級からではなく、未知の人たちの (unknownmen)の創造力と発明と野心によって作られる」
- ・ 1933年証券法制定…「証券」についての判例ハウイ判決(1946年)
「工夫を収益にかえる共同事業」=証券(付加価値創造力)を分売(拡める)ことが証券市場

(日本)

- ・ 明治開国、第二次大戦後の commodity 経済時代には官主導、銀行、大企業、製造業で大成功を納めた日本
- ・ 1970年代に入って commodity(生活必需品)から security(嗜好品)時代に入って財政金融主導資金分配経済のゆきずまり。
- ・ 「創造」の原点は支配病に冒されないミドルクラスの知恵(ベンチャー)にあることがやっと理解され始めた日本。

4 失敗、腐敗原因…私・智、官・愚、散・明、集・暗

P35 学者の職分を論ず

P37 「我国の形勢を察し、その外国に及ばざるものを挙げれば、且つ学術、且つ商売、曰く法律これなり。

世の文明は専らこの三者に関し、三者挙げざれば国の独立を得ざること識者を俟たずして明らかなり。

然るに今我国において一もその体を成したるものなし」

P39 「…またかの誠実なる良民も、政府に接すれば惣ちその節を屈し、詐欺術策もって官を欺き、嘗って恥じるものなし。

この士君子にしてこの政を施し、この民にしてこの賤劣に陥るは何ぞや。

あたかも一身両頭あるが如し。

私にあつては智なり。

官にあつては愚なり。

これを散すれば明なり。

これを集むれば暗なり。

「政府は衆智者の集る所にして一愚人の事を行うものと言うべし」

「…世の文明を進めるにはただ政府の力のみにより頼るべからざるなり」

「…その任にあたる者はただ一種の洋学者流あるのみ」

P40 「…近年この流の人漸く世界に増加し、或いは横文を講じ或いは訳書を読み、専ら力を尽すに似たりと雖ども、

学者或いは字を読みて義を解さざるが、或いは義を解してこれを事実
すの誠意なきか、その所業につき我輩の疑いの存するもの尠からず。」

- ・ 「その疑いを存するとは、この学者士君子、皆官あるを知って私あるを知らず、政府の上に立つの術を知って、政府の下に居るの道
を知らざるの一事なり。
- ・ 「…あたかも漢を体にして洋を衣にするか如し」

◎ 教訓 「皆んなで作るゴミ、インチキの山になりやすい官の集団」

○アメリカの歴史(失敗と再建)

- ・ 憲法1. 8. 3 defense welfare commerce regulation tax 一体 commodity経済までOK
- ・ 1900年代security経済に入って詐欺的行為制御に失敗…金融経済システム
の崩壊
1934年法で公益の確認、創造力(証券)と詐欺的行為規制10b-5を確立し衆知を集める「公」の市場経済確立…security market…グローバルスタンダードへ

○日本の失敗

1970年戦後復興、commodityの時代まで資金集中投資と秩序法機能を発揮して成功以降、security時代に入って詐欺的行為の規制法欠落のまま証券市場メカニズムを導入→金融→企業→財政→社会、全面汚染、公経済を金、物、心競争のゴミ捨て場に利用しとばしてきた国民経済の失敗

- ・ 国会形だけの民主主義、多数決国債とばし…官の崩壊…(諭吉)集むれば暗、散すれば明
- ・ 手足だけ世界の知と交わるが本丸だけ遅れる一身両頭の日本
- ・ 私の智を生かす「公」が作れない悩みの日本 鍵はsecurityと「法」10b-5=marketメカニズム

5 再建策 「疑」「取・捨」「断」=market

P133 「事物を疑って取・捨を断じること」

「信の世界に詐欺多く、疑の世界に真理多し」

「文明の進歩はその働きの趣きを検索して真実を発明するに在り」
 「西洋諸国の人民が今日の文明に達したるその源を尋ねれば疑の一点より出でざるものなし」（ガリレオ、ニュートン、ワット、マルチンルーザー）
 「事物の軽々信ずべからずこと果して是なれば、またこれを軽々疑うべからず」
 「この信疑の際につき必ず取・捨軽々信ずの明なかるべからず」

P135 「蓋し学問の要は、この明智を明らかにするに在るものならん」

P136 「その信疑の取・捨如何に至っては果して的当の明あるを保すべからず」

「信に過ぎ、疑に過ぎ、信疑共にその止まる所の適度を失するものあるは明らかに見るべし」

P142 「蓋しこれを思うはこれを学ぶに若かず、幾度の書を読み幾度の事物に接し、虚心平気、活眼を開き、もって真意の在るところを求めなば信疑忍を異にして、昨日の所信は今日の疑團となり、今日の所疑は明日了解することもあらん。学者勉めざるべからざるなり。」

◎ 教訓

(アメリカ) —market メカニズムの導入

- ・ 事物を疑って取・捨を断ずること

(アメリカ)

- ・ 公正競争の刺激する speculation の副作用としてのブレの発生是認、未知への探求、思慮力の効用とブレ測定のための疑い、チェック不可欠
- ・ value と price のギャップ・・・
取・捨を断ずる評価の必要性 = price メカニズムと科学的評価システム

(日本)

- ・ 人ベースの信に頼りすぎて疑を抑制排除され、信の是正失速を招いた失敗 = 軍事暴発 今回のバブル
- ・ 信に過ぎ、疑うに過ぎ適度を失するもの
- ・ value と price のブレ・・・必ず発するブレを見破る力

(アメリカ 人工的ブレ制御機能確立)

- ・ 適度を保つ為の工夫・・・ブレ防止
 - ・ 開示哲学の徹底
 - ・ security regulation SEC
- ・ 憲法 D. N. A 言語で承継される判例法の蓄積・・・10b-5 の効用
- ・ 民事救済システム

- ・ 失敗記録、経験則、未来予知、シンクタンク機能の充実

(日本) 人によるブレ修正の難しさ

- ・ タテ社会の構造的欠陥、人社会「信」偏重、「疑」異端者扱い
- ・ 人為的に作られる金、法、頭脳共有財産発想・・・疑頭能力退化
- ・ 学問の要は、この明智を明らかにすることにある

(アメリカ)

- ・ 憲法 DNA 言語・・・defence welfare commerce regularion 一体言語で伝承する判例法による明智判例判断記録の蓄積と継承
- ・ 失敗の継承と集積・・・事故調査記録、投資効率の検証・・・民(企業)、公(財政)で共有する失敗記録
- ・ 民事訴訟による参加者間の欠陥摘出

(日本) 天、行政・・・人の上に立つ人の英知に任せた公経済の明智判断依存

- ・ 「評価益共有財産」と「明智の評価法」と「測定メーター基準」を天と行政に委ねて一時的に世界NO2の経済成長国となったが、結局「失敗経験則の蓄積」がなかったため自己腐敗が防げなかった日本
- ・ その原因は明智判断記録は私企業にあるが、立法、司法、行政、金融、教育、情報セクターなど本丸の中枢にこの失敗経験則をベースとした「頭脳機能」が備わっていないことにある。

6 今の日本が必要とする福沢諭吉流の学問のすすめ

(1) 日本版構造改革の必要性を予見していた「学問のすすめ」・・・学術法機能改革

日本は「学問のすすめ」が書かれた1870年代から先進国の仲間入りをして飛躍的發展をとげた。

それは諭吉が指摘していた民間産業、商業の国際的發展であり、それを支えた自然科学部門の貢献である。

その意味ではcommodity(生活必需品)経済においては、この自然科学部門の発達によって世界に冠たる製造業を創りあげ日本の今日の繁栄の原動力となっているのである。

しかし足りなかったものがある。それは諭吉が指摘した国の頭脳ともいえる学術、法律といった「社会科学」部門の立ち遅れである。

それは、飯を喰う辞引、文字問屋という表現で酷評した法・学術などの社会科学寄生那虫病者がお上に集って国家としての智の創造を妨げたことで

ある。

その智の欠落したお上に軍事競争を委ねて失敗したのが第二次大戦の敗戦であり、今日の security(知的創造力)マネー経済戦争における敗戦である。

それは知的創造力を持たない、作れない平和社会を守る役目しか与えられていないお上の財政・金融セクターに余分のお金のマネジメントを委ね過ぎた結果、自己腐敗を招いたことである。

結局、自然科学分野では西洋文明を直輸入して国民経済の手足となる産業活動力を生かして先進国には追いつけたが、思想、哲学、精神を創り出す法律制度、経済などの「国家の頭脳」センターだけでは外来「文字」を直接翻訳するだけでは本物の動物斗争力を持った頭脳を作れるものではなかったのである。

日本では特にこの20年「知的創造力」を競う「security」競争時代に入って、この「法律・経済」システムの中に知的創造力と品質鑑定選別機能という「特別の頭脳」が必要になるにつれて諭吉が指摘していたように物真似頭脳国家の欠陥が一気に表面化しはじめ学術、法など国家の頭脳心臓部問の構造改革の必要性がはっきりしてきたのである。

(2) 具体的な構造改革の処方箋・・・民主導、創造、price メカニズム、シンクタンク機能の育成

- ① それは諭吉が指摘している具体的な処方策とは「私」-「智」、「官」-「愚」、「集」-「暗」、「散」-「明」の表現のように「集」-「暗」、「官」-「愚」から「私」-「智」、「散」-「明」・・・つまりお上主導分配主義から**民主導**投資経済に切りかえることと
- ② 「ミツヅルカラス」による「創造」・・・お上、大企業ではなく中間階級による**ベンチャー力**を高めること
- ③ 「疑」を封じ「信」に偏った頭脳を「取・捨」「断」ずることの出来る**マーケットメカニズム・・・プライスマカニズム**を確立すること。
- ④ 「取・捨」「断」をするために必要な英知・・・(失敗記録判例先見・予知力・・・マーケット型法機能**シンクタンク機能**)を備えることにある。
- ⑤ この4つの処方策は1929年アメリカ大恐慌後とられたアメリカの国家再生の考え方を基本的に通しているのである。

(3) 漢字と英語・・・波作り言語と波消し言語

1870年代の「学問のすすめ」において諭吉は何故これほど明確な分りやすい言語・・・漢字で現在の日本の構造改革の必要性と改革の処方箋ともいえるアメリカの市場経済メカニズムの頭脳と心臓部分を的確に分析で°

きたのであろうか。

逆に言えばそれ以降130年もの間これほど明確な言語でアメリカ市場経済メカニズムの本質と日本のメカニズムの違いを解説した人が居ないのは何故だろうかという疑問である。

それは長い間、真似やすい枝葉末節の手足の技術的な部分だけを便利な字引に頼ってバラバラに真似て・・・有価証券届出制度、公認会計士制度、取引所ルール、ブローカー・・・肝心のその巨象の「頭脳」とされる法 10b-5 「心臓」といえる証券など「波作り」の部分については学ばない、学べないまま先送りしつづけてきたことにある。

その巨象の「人工頭脳」と「人工心臓」部分の波作り機能とはたらき、基本哲学メカニズムと日本のお上頼みのメカニズムとのギャップの違いをずばりと見抜いた福沢諭吉の武器は自らが育った「漢」語の持つ「スピリット」と、商取引の現実と、自ら工夫して解明しようとしていた各国の制度メカニズム哲学と日本との違いを追求する心にあるのではないかと思われる。

そして狩猟民族波作り型の西欧社会と日本の農耕民族波消しお上依存社会システムの違いを肌で感じたことである。

悲しいことにそれ以来、日本では外来社会科学のメカニズムは、法律解釈、理論経済などの部分的間接的な波消型整合性探求に終始し波動経済下における国民経済全体のメカニズムに必要な基本哲学と機能分析が行われないまま、大きなズレが発生し今日の大構造改革に追いこまれているのである。

そして今日本は、日・米の先人の遺してくれた経済の頭脳と心臓のメカニズムの真髓を学ぶ時を迎えているのである。